



## みんながカメラを持ち歩いている時代。 悪ふざけが一生物に。—「ちょっとふざけただけ」が人生を左右する—



ネットパトロールでは、迷惑行為や危険行為の投稿が継続的に見つかっています。多くは悪意というよりも、「ノリ」「承認欲求」「仲間との一体感」から生まれています。

例えば、

店内で未購入の商品を身につけて撮影

友達の写真を無断掲載

公共の場での危険行為を動画投稿

制服姿での問題行動

投稿した本人にとっては「数秒の出来事」でも、データは消えません。削除してもコピーや転載が残ることは珍しくありません。進学や就職の際に、過去の投稿が掘り起こされる例も現実にあります。「高校時代のノリ」が、数年後の自分の足を引っ張る可能性を想像してみましょう。

顔を写していなくても、個人情報を書き込んでいなくても安心はできません。写り込んだ背景から個人を特定することは、決して難しいことではありません。

例えば、制服や体操服から学校を特定したり、表札や看板、特徴的な建物などの街並みから地域を特定したりすることが可能です。複数の投稿を分析すれば、個人を特定することも難しくありません。実際に、集合写真を投稿しただけで、非公開アカウントの友人が特定された事例も報告されています。鍵付きアカウントであっても安心はできません。フォロワーがスクリーンショットを撮れば、外部へ広がる可能性は十分あります。

「友達しか見ていない」は、「友達が絶対に拡散しない」という保証にはなりません。問題行動を起こした本人だけでなく、撮影した人も「拡散の加担者」になります。「撮っただけ」「タグ付けしただけ」でも責任が生まれる時代です。



### ポケットの中にある「世界への中継カメラ」

今は、街ゆく人のほとんどが高性能なカメラを持ち歩いている時代です。しかもそのカメラは、撮った瞬間に世界中へ発信できる機能がついています。

自分や仲間が投稿しなくても、誰かが投稿するかもしれない。そんなリスクが常に存在しています。

- コンビニでふざけて商品を持った瞬間。
- 原付に二人乗りした瞬間。

その「一瞬」を誰かが撮影し、インターネット上に公開する可能性は常にあります。

そして動画や写真として残り、半永久的に消せなくなることもあります。

「自分は投稿していないから大丈夫」という考えは通用しません。

行動そのものが、記録される時代です。



## 他者視点・時間軸視点・社会視点を育てる

ネットの問題行動は、「ネットリテラシー」を学ぶだけでは不十分です。ルールを知っているだけでは、自分を守ることはできません。大切なのは、考える力を育てることです。

### 他者視点

その投稿で誰が傷つくか？



### 時間軸の視点

5年後の自分はどう感じるか？



### 社会視点

学校・家族・友人にどんな影響が出るか？



この3つの視点を持てるようになることが、最大の予防になります。

また、問題行動の背景には、承認や仲間とのつながりを強く求めている気持ちがあることがほとんどです。

問題が明るみに出た際には、行為を叱責するだけで終わらず、

- どんな気持ちで撮ったのか
- どんな反応を期待していたのか
- 他に満たせる方法はなかったか

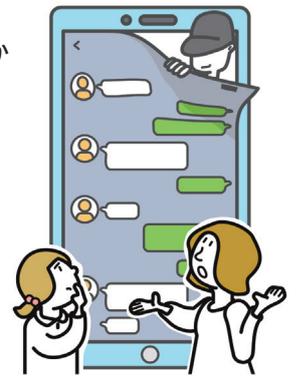


を一緒に振り返る姿勢が必要です。

そして忘れてはいけないのは、大人自身の姿勢です。

- 自分は本当にネットリテラシーが身についているか。
- 多様な視点で物事を考えられているか。

大人が見本を示すことが、最も強いメッセージになります。



## ネットリテラシー 今月のポイント

- 何気ない投稿がその後の人生を左右してしまうこともある
- 悪ふざけの一瞬を、誰かが撮影し投稿されてしまう可能性がある
- ネットリテラシーを学ぶだけでなく、考える力を育てることが大切



## 心理

# 保護者からの相談 # 無料の代償 # 心の成長

### Q 広告の「無料」を信じて、すぐにクリックしてしまいます



小学5年生の娘が、スマホゲームの「無料でガチャ1回」「限定イベント開催!」という表示を見つけると、すぐに押してしまいます。

「無料だからいいじゃん」と言って悪いことをしている意識は全くないようです。先日も、ゲーム内で「無料」と書かれていた広告を押したら、別のアプリが勝手にインストールされてしまいました。「押したらどうなるのか考えてみようね」と話しても、「だってみんな押してるし」と笑って流されてしまいます。

最近はYouTubeの広告やSNSでも同じようなボタンを押してしまうようで、親として心配です。どう伝えたら、安易にクリックすることの危険性を理解してくれるでしょうか。

小学5年生頃のお子さんは、心身ともに大きく変化、成長していく時期です。一方でまだ幼さも残る「伸び盛り」の時期にあります。自分の身体の変化に戸惑う子どもも多く、周り自分を比べて不安になることも少なくありません。心の中では「自分で決めたい」自立心と「頼りたい」依存心の間で揺れ動いています。



「自分でできる」と背伸びをしたい時期ですが、先々のリスクを見通す力はまだ育っている途中です。そのため、大人から見ると危なっかしく、言葉と行動がバラバラに見えることもあります。そんな不安定な時期だからこそ、何かに夢中になったり自信を持ったりすることで、心の安心を探しているのです。

## ● 「無料」「限定」という言葉に惹かれる心理

人は利益を得る喜びより、損失を避けることを重視する傾向があります。これを「損失回避バイアス」とよび、「無料」「限定」という言葉はこの心理を利用したものです。『得だから』という以上に、『損をした』気分になることを避けたいという気持ちも存在していると推察できます。損をすることは、傷つき、自信をなくすことにも繋がります。『損をする選択をした自分』に対してがっかりすることを避けるために、人はできるだけ損しない方を選ぼうとする心理がはたらくと考えられています。

## ● 「みんなやっている」と安心する心理

同じように、「みんなやっていることは自分もやりたい（やっても大丈夫）」という気持ちにも、心理的バイアスが影響しているといわれています。「他人もやっているから大丈夫」と判断し、同じ行動を選びやすくなる心理を「社会的証明」と呼び、特に自分と似た立場の人のレビューやランキングなどは大きな後押しになります。

また、「みんながやっている（流行っている）ものは自分もやりたい」という心理傾向を「バンドワゴン効果」といいます。この背景には「みんながやっていることから乗り遅れる＝損をしている、周囲から劣っている」ことを避けたいという心理もあると考えられます。

## ● 対応のポイント

### Point 1 気持ちを尊重し、リスクを共に学ぶ

「無料」「限定」「みんなやっている」などの言葉に惹かれる背景である『損をしたり周りに遅れたりして自信を失いたくない』という心理をまずは尊重しましょう。その上で現実的なリスクについて一緒に学んでいくという形が、子どもの自尊心や自立心を妨げづらいと思われます。

### Point 2 「無料」の裏側を具体的に伝えよう

「無料」の危険性について伝えるには、大人も具体的にどのような危険があるのかを学ぶことから始めましょう。「なんとなく危なそう」というイメージだけでは、子どもの衝動性にブレーキをかけることは難しく、きちんと説明することで、お子さんも立ち止まって考えやすくなります。

「危ないから」という言葉よりも、「お金はかからなくても、相手は別の何かを受け取っている」という仕組みを具体的に伝えましょう。その上で、「後から自分が困ることになる」「自分が困らなくても、保護者が困ることになる＝自分にも影響する」可能性を伝えていく方が受け入れやすいかもしれません。

### Point 3 大人が「外枠」になり、守る環境を整える

心理的背景や見通しの立てづらさなどからブレーキがかかりづらいと感じたときには、本人の判断だけに任せず、周囲の大人が大枠を作ることも大切です。「無料でもアプリはダウンロードしない」「広告が出てもクリックしない、したいときは事前に大人に確認する」などのルールを定めたり、広告を非表示にするフィルタリング等の環境を整えたりすることも有効です。



ネットリテラシーを高めること、色んな可能性を考えていったん立ち止まることは、「危険な目にあわないため」という目的と同時に、「自分や周りが困ったことにならず、これからも気持ちよくネットを使うため」という目的もあるのだということを伝えていきましょう。

同時に、ネット以外で「できていること」にも目を向け自己肯定感を高めることが、安易なクリックを防ぐ心のブレーキに繋がります。



a spoonful of suger  
公認心理師・臨床心理士

### 浅井 育子 先生

田辺市上屋敷でカウンセリングルームを主催。病院での勤務経験やスクールカウンセラーの経験を生かし、ひきこもり・不登校などの課題の解決に向けたカウンセリングを実施している。

2026年1月のネットパトロールで発見された問題投稿は5件。そのうち個人情報流出が1件、喫煙が2件、迷惑・危険行為が2件発見されました。個人情報流出は、運動会で友人と写真を撮ったものが投稿されていました。



楽しい思い出の写真だと思いがちですが、自分や友人・周りの人の顔が映ってしまっており、体操服から学校も分かってしまいます。学校行事などで写真を撮る機会が多いかと思いがちです。しかし、投稿する前に本当に載せて大丈夫か一度考えてみてください。一度SNSに投稿された画像は簡単には消えませんので注意が必要です。

## 心に「もやもや」抱えていませんか？

SNSは、気持ちを吐き出したり、誰かとつながったりできる便利な場所です。友だち関係や学校生活、将来への不安など、心にたまった「もやもや」を誰かに聞いてほしいと感じることは、決して悪いことではありません。しかし、そのはけ口がSNSだけになってしまうと、思わぬトラブルにつながる可能性があります。

感情のままに投稿した言葉や写真は、完全に消すことが難しく、後から自分を苦しめる「デジタルタトゥー」になることもあります。また、弱った気持ちにつけこみ、甘い言葉で近づいてくる大人や知らない相手がいるのも事実です。

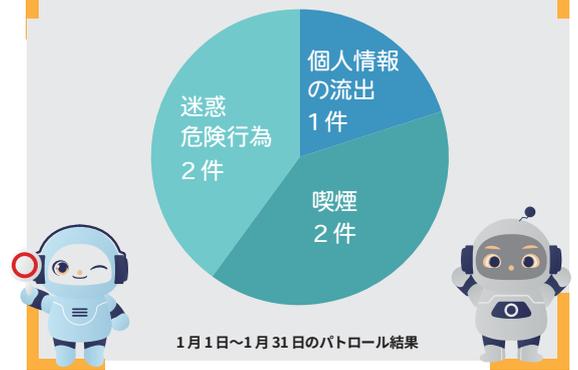
子どもにとって大切なのは、「つらい」と感じた気持ちを、安心できる相手に伝えることです。家族、先生、信頼できる友だちなど、顔の見える相手に話すことで、気持ちは少し軽くなります。

保護者の方には、SNSを頭ごなしに否定するのではなく、「どんな気持ちで使っているのか」に耳を傾けてほしいと思います。日頃から会話を重ねることで、子どもは悩みを抱え込まずにすみます。

また近くに相談できる相手がいらないと感じる場合は、公共のサービスを使ってみるのも一つの手です。わかやまネットトラブル相談窓口は、ネットトラブル解決のための相談窓口ですが、どんなに些細な相談でも対応しています。自分だけでなく、友達が困っているかもしれないといった相談でも構いません。自分の子どもや生徒が困っているといった相談も受けています。少しでも「もやもや」するなと感じたらサイトを覗いてみてください。



和歌山県内の青少年の問題投稿



## ネットトラブル相談窓口

# 24時間、チャットbotで相談いただけます！



ネットトラブルの相談窓口を開設しています。右下のリラちゃんのボタンからチャットを行うことができます。24時間、チャットbotが自動で対応するため、気軽に相談ができます。

平日 15:00-19:00 には希望すれば相談員とお話することも可能です。



### インターネット上でのこんなことを相談いただけます！

- アカウントを乗っ取られた
- 無断投稿を削除してほしい
- 暴力的な表現の投稿を見つけた
- 危険な行為の投稿を見つけた など



## 先生方や保護者、支援機関からの情報提供・相談も受け付けます。

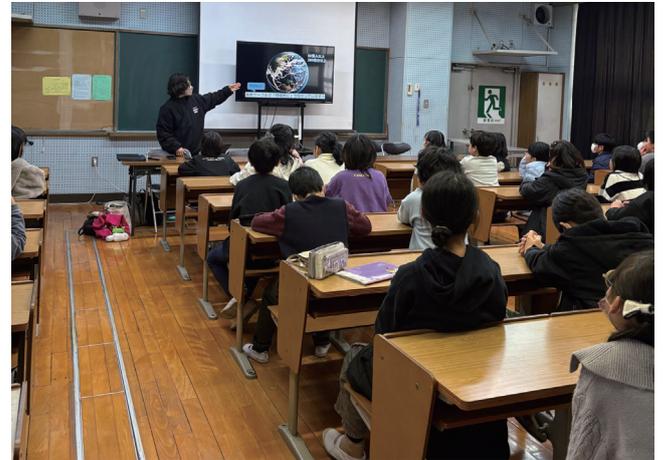
わかやまネットトラブル相談窓口では、先生方や保護者の方からの相談も受け付けています。問題のある投稿を見つけた、この問題に対する対処方法を教えて欲しいなど、インターネットのトラブルに関連する様々な解決をお手伝いします。webサイト右下のチャットからアクセスして、ご相談をお寄せください。

## 自分事として捉え、トラブルを防ぐ意識を持つ

1月の講座は小学校・中学校で計7件の講座を実施しました。講座をさせていただいた学校の先生より、ネットゲームでの金銭トラブルがあったとお聞きしました。その学校では、子どもたちもトラブルを身近に感じているようで、安全なサイトなどの見分け方について質問がありました。

実際に起きたトラブルを知ることは、子どもたちが自分を守る第一歩になります。他校の講義でも、こうした事例を自分事として感じてもらえるよう丁寧に伝え、トラブルを防ぐ意識を持ってもらえるよう、引き続き講義を行ってまいります。

講座日	学校名	講座内容	対象生徒の学年	人数
1/13	有功小学校	情報モラル	小学4年生	47名 (教職員2名)
1/15	田辺第三小学校	犯罪やトラブルの防止	小学5～6年生	61名 (教職員5名)
1/16	港小学校	犯罪やトラブルの防止	小学4～6年生	40名 (教職員5～7名)
1/22	安原小学校	情報モラル	小学1～3年生	250名 (教職員5名)
1/29	丸栖小学校	犯罪やトラブルの防止	小学4～6年生	67名 (教職員15名)
1/29	中之島小学校	犯罪やトラブルの防止	小学4年生	48名 (教職員2名)
1/30	湯川中学校	情報の利活用	中学1～3年生	101名 (教職員22名)



**わかやま  
ネットパトロール通信**

令和7年度「青少年ネット安全・安心のための環境整備事業実施業務」  
企画・制作：TETAU 事業協同組合

お問い合わせ

TETAU 事業協同組合  
050-5536-9139 (平日 10:00～16:00)  
netpat@tetau.jp (担当：森脇・信貴・中村)

和歌山県 共生社会推進部 こども家庭局 こども支援課  
TEL：073-441-2502 FAX：073-441-2491  
メール：e1104001@pref.wakayama.lg.jp